

29.7.26

(提案書 様式①)

協働の機会提案書（継続用）

2017年 7月 26日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 23-004

名 称 木下まち育て塾

所在地 印西市木下

代表者 伊藤 哲之

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	印西市木下地区歴史講座—木下河岸から小網町行徳河岸へ、江戸・東京への道、木下街道・行徳航路の歴史を学ぶ—
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	<p>(1) 平成29年4月、標記の事業を木下街道沿道5市及び行徳航路沿川3区の学芸員を講師としてお迎えし、市内外から16名の市民を受講生として開始した。本事業の特色はこれまでにない、①市民(当塾)が主体的に印西市と協働しつつ、関係各市区を繋いで事業を実現した。既に印西市、白井市、鎌ヶ谷市及び市川市各市の博物館学芸員の方による講義を順調に終えた。②千葉NTのケーブルTV、ラーバネットと協働し、各講義を講師のご理解のもと、収録し、毎月一度放映している。これにより千葉NT地区約1万2000世帯に講義を届けている。歴史的建造物活用を第一義的にする一方、一部市民限定という隘路を開くべく試行している。地域密着サービスを社是とする民間企業との前例のない協働事業である。これにより直接、講義に参加できない市民も居ながらにしてすべての講座を視聴できることとなった。</p> <p>(2) 講師の方には木下を、印西を知って頂く貴重な機会と考え、「いんざい水の郷ネットワーク」が運航する手賀沼遊覧船に乗船していただく、木下交流の杜歴史資料センターを案内する、木下の伝統の食を手土産にさせていただき、木下を代表する武蔵屋まちかど博物館ほか市内の飲食店での昼食をして頂く等木下の良さをアピールしている。既に市川市歴史博物館からは木下探訪の申込を頂いており、他市の講師をお迎えしての交流が実を結びつつあり、この動きは更に増加すると思料。</p>
提案理由	<p>(1) 明治14年の次の新聞記事は当時の木下の占める位置が判明する興味深いものである。「(前略)茨城県其他銚子小見川近邊の人は必ず前日汽船に乗り(利根川通ひの川蒸気船十艘余あり木下へ大概上陸)其夜木下へ上陸同所へ一泊して翌日歩行すること七里にして行徳新宿より亦々汽船に乗り其日太陽ある中に東京出するを得(後略)」(『千葉公報』明治14年4月19日)と述べ、利根川水運全盛期のこの時期、木下が下利根川並びに霞ヶ浦及び北浦沿岸諸都市と東京を結ぶ交通結節点であり、行き交う人々が多かった木下及び木下街道の繁昌振りをよく伝えている。</p> <p>(2) 上記記事は、木下の歴史を理解するには利根川と江戸川を繋ぐ連水陸路たる木下街道、下利根川水運の歴史を学ぶ必要性を示唆している。木下の性格は純粋交通集落であり、道と川により諸都市と繋がることにより生業をたててきたという大きな特色がある。</p> <p>(3) 印西市の人口は、平成29年4月末現在で98,008人(内千葉NT居住者59,699人・61%)、寺子屋吉岡を市との協働事業とした平成24年同時期は92,179人(52,471人・57%)である。5年間に全体で5,829人、6.3%の人口増をみた。NT地区は7,228人、14%増、NT地区外は逆に1,339人、4%の減となっており、この傾向は今後も続くものと思料。これら新住民へ地域の歴史を通しての故郷意識の醸成が必要と思料。</p> <p>(4) 微力とは言え、印西市の基本計画にある「地域のもつ可能性を活かし</p>

	<p>た魅力あるまちをつくる」及び「健やかな心と体を育み未来を拓く、まちをつくる」に対し、当塾及び印西市が継続して行う必要性が一層求められている。</p> <p>(5) 今回は前回に引き続き、木下河岸の歴史を市外から見ることにより、木下への新たな視点を得るべく市民と共に木下河岸から江戸・東京への道、木下街道及び行徳航路へと視野を広げ、一層の理解を得ることを意図する。</p>
<p>提案内容 (前年度の実施を踏まえた改善内容)</p>	<p>(1) 平成 29 年度、内容も新たに開始した当事業は未だ半分も終わっていない。ラーバンネットの講義の収録、放映も始まったばかりである。更にもう一年は継続し、成果を出していきたい。</p> <p>(2) 今回は試験的に実施しているラーバンネットとの協働事業を本事業にも位置づけ、月 1 回の放映から更に市民の学びの機会を増やし、60%を超すNT地区の市民にふるさと印西の意識醸成に寄与させていきたい。</p> <p>具体的には</p> <p>①沿道、沿川関係 8 市区（印西市、白井市、鎌ヶ谷市、船橋市、市川市、江戸川区、江東区、中央区）の学芸員又は研究者の方々から吉岡まちかど博物館にて木下街道、行徳航路について学び、木下、木下街道への理解を深める。</p> <p>②ラーバンネットと協働し、講義を収録、放映する。学びの機会を拡大する。</p> <p>③木下街道、行徳航路に係る講演会を広く市民向けに開催する、又は行徳航路を体感するために市民と共に乗船体験を行う。</p> <p>④沿道、沿川の講師の博物館等を訪問し、更に理解を深め、交流する。</p>
<p>貴団体の特性、協働で実施するメリット</p>	<p>木下まち育て塾は、江戸期から明治期にかけ利根川水運で繁栄した木下河岸を中心に、今ではやや元気のない、印西市の中心市街地である木下・六軒を「何とか元気にしたい」を掲げ、具体的には</p> <p>①往時の面影を今に伝える蔵・町屋の保存と活用</p> <p>②地域への愛着と誇りを醸成する歴史の調査・研究、掘起こし</p> <p>③活性化へ繋ぐ市民ウォーク、市民公開講座等イベントの開催等を行っている 30 代から 70 代のサラリーマン、主婦等多様な市民からなる平成 15 年 3 月に結成したまちづくり市民団体である。前身は平成 13 年 10 月、印西市主催の「木下まち育て塾」。14 年 8 月の解散後、有志が「志」と「名」を継承した。当塾のこれまでの実績は木下河岸の歴史紹介を兼ねた『吉岡まちかど博物館開館 10 周年記念誌』（平成 26 年）、吉岡まちかど博物館の改修の技術史ともいえる『蔵 吉岡まちかど博物館 10 年史 2004～2014』（平成 27 年）を参照されたい。</p> <p>(2) 協働のメリットとして、印西市という行政のみでは発想、行動に限界があるが、木下まち育て塾という多様な市民からなる市民団体との協働により、より大きな成果が得られる。一方、木下まち育て塾は、一弱小市民団体であり、多数の公共団体と連携するイベントの円滑な開催は困難である。印西市との協働はその点を大きく信用補完し、円滑に企画を実施できる。</p>
<p>継続実施により得られる効果及び今後の展望</p>	<p>木下が銚田、小川等茨城県の霞ヶ浦及び北浦縁並びに銚子及び佐原等下利根川の諸都市から東京への交通結節点であったことなど現在では想像すら困難である。道と川で繋がることにより繁栄していた木下を理解するには木下街道、行徳航路、更には下利根川流域の歴史を学ぶ必要がある。これらを学ぶことにより木下、木下河岸へ新たな光を当てることができ、一層の理解が深まるものと思料する。今回は前回に引き続き、先ず木下に繋がる木下街道、行徳航路を体系的に学ぶこととする。</p> <p>将来的には今回提案の木下街道から更に、水運で繋がる木下に焦点を当て、霞ヶ浦、北浦縁の茨城県及び佐原、銚子等千葉県の下利根川の諸都市との繋がりの中から木下、木下河岸を学んでいく構想を温めていきたい。</p> <p>上記の企画は木下街道、行徳航路、下利根川、霞ヶ浦水運の歴史を学ぶだけでなく、これら諸都市の市民、市民団体との交流、更にはこれらの学習を契機に木下、木下河岸の歴史を研究する市民のきっかけともなるものである。まちづくりは居住地への愛着と誇りなくしてはなしえないものであり、愛着と誇りは先ず地域の、先人の歴史を知ることである。今回の企画提案が上記の実現に寄与したいと考える。</p>